



第 32 回 ロータリー月例報告書

2023 年 5 月

気が付けば 5 月に入っていました。気温が日に日に上がり、日中は 20 度を超える日も多くなってきました。第 31 回目の月例報告書では 2023 年 3 月から 4 月までの生活状況をご紹介します。

今月は論文執筆と実験、研究発表準備の 3 本に追われながら過ごしました。この 1 年くらい 2 週間に一度の頻度で先生と個別ミーティングを研究進捗報告のために行っています。最近よく、論文原稿の状況は？と掻き立てられることが多くなっていました。さらに、ある日メールで「だらだら引き延ばすのは良くない。論文を終わらせるには最後は殺人本能 (killer instinct) が必要だよ」と先生に言われたのをきっかけに、共同研究者の返信を待たず、とりあえず一旦こちらで出来る部分を全て終わらせようと真剣なエンジンが掛かりました。いざ始めると色々自分一人では担当できない箇所に梃子摺りながらも、結局数週間掛けてまとめ上げることが出来ました。執筆作業は本当に困難でとても体力と気力を消費します。これから 3 人の研究主宰者たちから添削と修正を大量に求められることは必至ですが、その時が来るまでは一旦肩の荷が降りた状態で忘れたことにしてリラックスしています。

今春 2 月末に参加したコロラド研究集会では、研究発表とスノーボード以外にも収穫がありました。コロラド大学ボルダー校で博士課程をしている韓国人の友達に、雪山リゾート地まで連れて行ってもらった際、道中色々な話をしました。研究の話や将来の話、外国人としてアメリカで暮らしていくことなど気軽に話していましたが、一番興味深かったのは彼の研究室についての話です。実は彼の研究室の先生は博士号を今私が師事している先生のもとイェール大学で取得しました。去年の夏にニューハンプシャー州であった学会でこの先生と会った時は、噂通りの若く才気溢れる一方でとても気さくな親しみやすい性格でした。研究室の運営もスムーズで友達も幸せに博士課程を送っている印象を当時受けました。しかしスノーボードから帰ってきて、ホテルの玄関ホールでテイクアウトしたタイ料理を夜ご飯に食べている時に、研究室であった事を色々話してくれました。後輩や同期、先生から生じる人間関係のもめごとや、遂にはその問題を発端に実験研究の進捗にまで与えられる影響について教えてくれました。彼は 2018 年から博士課程を始め今は卒業の準備をしている中で、その外的ストレスの大変さと煩わしさは明らかでした。外部をぱっと見て順調そうでも内部はそうでないことがあることを改めて考えさせられました。

この他にも新しく研究室に参加したポスドクの人たちから研究室の雰囲気や問題を尋ねると、新鮮で気が付かなかった点を指摘されることが多々あります。時間が経つにつれ環境に慣れて来る一方で、その分現状に対して視野がどうしても狭くなっていくことに注意したいと感じます。写真は毎日オフィスへ向かう通学路です。天気の良い日はキャンパスが特に綺麗で思わず立ち止まってしまいます。いつも国際ロータリー財団様の多大なご支援を有難うございます。

